

システム名	Kシリーズ
適用バージョン	V 0 1
資料コード	A 2 5 6 4 3 8 * * - 0 1 - 3

ソ フ ト ウ ェ ア 説 明 書

Kシリーズ

C A F I S C O U P L E R / S C 5

V 0 1

ま え が き

このソフトウェア説明書は、

Kシリーズ C A F I S C O U P L E R / S C 5 V 0 1

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書を御一読下さい。
本ソフトウェアのインストールを実施するにあたり、その2週間前までに弊社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せの上、インストールを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は弊社の技術員にお問い合わせ下さい。

尚、本書にて用いる記号の意味は次の通りです。

参照 : 本書の中の参照箇所を示しています。

参照【】: "適用マニュアル"に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。

例: 参照【1】1.2... "適用マニュアル"第1項のマニュアルの1.2を参照。

1997年10月

富士通株式会社

- ・ C A F I S は、弊社が N T T データ通信株式会社から使用を承諾されている名称です。
- ・ 本ソフトウェアは、C A F I S センタとの接続の目的以外にはご使用できません。

目 次

1 . 機能概要	1
2 . 構成プログラム	3
3 . 適用マニュアル	4
4 . 新機能	5
5 . 移行上の注意	6
6 . ソフトウェア組合せ	7
7 . 提供媒体の形式と内容	8
8 . D A S D 所要量	9
9 . インストラクションの手引	1 0
1 0 . インストラクション正常終了の確認方法	4 5
1 1 . 動作環境のチューニング	4 6
1 2 . 業務ジョブのタイマ監視サポート	4 7
1 3 . その他注意事項	4 8
付録 . 1 メッセージの説明	4 9

1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。
詳細は、本書の“3. 適用マニュアル”に記載のマニュアルを参照する。

Kシリーズ C A F I S C O U P L E R / S C 5は、N T TのC A F I S (Credit And Finance Information System)とのセンタ間接続を支援することを目的としたクレジットオンライン制御システムである。

C A F I S C O U P L E R / S C 5 (以降C - C O U P L E R / S C 5またはC - C O U P L E Rと記述)は、C A F I Sとの一般的なオンライン制御、開閉局電文を含む制御電文の送受信を完全にサポートし、また一般業務電文の制御情報である通番等の管理も行い、ユーザは業務電文のみを意識してC A F I Sと接続することを可能としている。

1.1 オンライン制御機能

通常、オンラインシステムを構築する場合、ユーザは回線アクセスを意識したプログラムの作成が必要となる。C - C O U P L E Rは、オンライン制御部を完全に取り込んでいる為、ユーザは、C - C O U P L E Rとのメッセージのやり取りのみを意識すれば良い。

C - C O U P L E Rが完全にサポートする機能としては、回線タイマ監視、電文の通番管理、開閉局制御、経路選択がある。

1.2 業務プログラム支援機能

業務プログラムの起動順序や持廻り情報の保存及び送受信メッセージの受け渡し(ルーティング)順序等業務プログラムのスケジューリングを支援する。

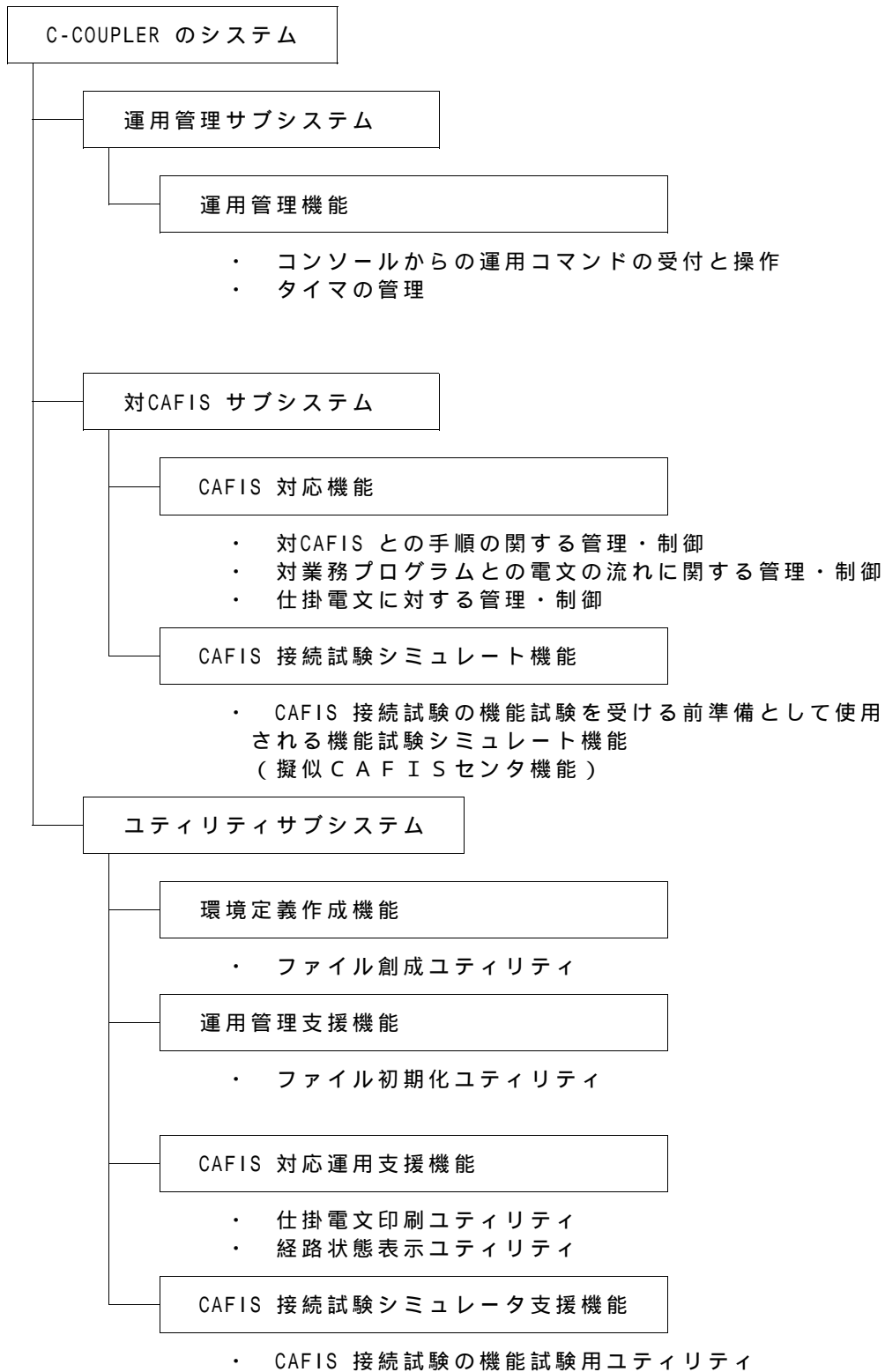
1.3 運用管理機能

開閉局、業務開始、停止等の運用コマンドを提供する。

1.4 開発支援機能

C A F I Sとの接続試験用シミュレータ、環境設定ユティリティ、仕掛電文印刷ユティリティ等を提供する。

C - C O U P L E R の機能体系を以下に示す。



2. 構成プログラム

このプログラムは、表2.1に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項目	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	運用管理	CUPPK01	V01L**	運用管理
		CUPPPTIM	V01L**	タイマ管理
		CUPPCPST	V01L**	POSTキューイング
2	CAFIS 制御	CUPPPDDX	V01L**	CAFIS 制御
3	リカバリ	CUPPR06	V01L**	仕向仕掛精算処理
		CUPPR07	V01L**	送信リトライ処理
4	ユティリティ	CUPUTY02	V01L**	ファイル創成
		CUPUTY03	V01L**	ファイル初期化
		CUPUTY07	V01L**	仕掛電文印刷
		CUPUTY11	V01L**	経路状態表示
5	接続試験 シミュレータ	CAFPT91	V01L**	運用指令処理
		CAFPTDDX	V01L**	機能テスト
		CAFPT95	V01L**	結果印刷
		CAFPOST	V01L**	POSTキューイング
6	シミュレータ ユティリティ	CAFUTY01	V01L**	電文データ作成
		CAFUTY02	V01L**	アクションデータ作成

3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表 3. 1 に示す通りである。

表 3. 1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	C A F I S C O U P L E R 解説書	41AL-1920-1	

(注 1) 上記のマニュアルは C S P 用に作成されていますが、A S P にも適用することが可能です。

4 . 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョン・レベルに対して次のような機能追加及び改良がされている。

4 . 1 V 0 1 L 0 2 に対する機能追加・改良

中核機能について、以下の機能追加・改良が行われた。

4 . 1 . 1 取消確認（再）指令に対する異常報告電文受信時の経路フリー機能

エラーコードが C 1 2、1 5、3 3、6 0 の場合には取消確認再指令処理をリトライし、清算完了後経路を解放する。エラーコードが前記以外の場合には清算処理を中止し、経路を解放する。これにより、経路ビジーの発生頻度の減少が期待できる。（注 1）

4 . 1 . 2 取消（再）指令に対する異常報告電文受信時の経路フリー機能

エラーコードが C 1 2、1 5、3 3、6 0 の場合には業務からの再取消依頼を待ち、清算完了後経路を解放する。エラーコードが前記以外の場合には経路を解放する。業務からの再取消依頼時はエラーとする。これにより、経路ビジーの発生頻度の減少が期待できる。

4 . 1 . 3 経路状態表示機能

仕向経路の使用状態を表示、印刷することができる。（C U P U T Y 1 1）

4 . 1 . 4 仕向ルーティング処理レベルエラー時の処理の改善

C A F I S センタに対して送信異常が多発し、取消確認報告と取消確認再指令が競合した場合、取消確認再指令を廃棄し、取消確認報告を有効にする。これにより、従来は内部矛盾発生として取引処理中断（A B E N D）するケースでも、処理を続行できるようになった。

4 . 1 . 5 被仕向ルーティング処理レベルエラー時の処理の改善

他社センタから複数の電文を同時に受信した場合、最新電文を有効とする。これにより、従来は内部矛盾発生として取引処理中断（A B E N D）するケースでも、処理を続行できるようになった。

4 . 1 . 6 管理情報取得ルーチンの追加

C - C O U P L E R の運用中に、内部の運用状況、ネット状態を取得可能な提供ルーチン（C U P S R I N F）を追加した。

4 . 1 . 7 トラブル対応

續 W A R M スタート時に取消確認処理中の場合には、取消確認再指令からリスタートする様に変更した。

襲 P O S T コマンド送信時に異常が発生した場合、従来はシステム異常とみなし、処理を中断していたが、一定回数だけリトライするように変更した。

(注 1) エラーコードの詳細については、C A F I S 接続条件書の「障害電文『取消（再）指令、取消確認（再）指令』に対する異常時の応答処理」を参照。

5. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移る時には、以下の事項に留意しなければならない。

5.1 V01L01からの移行

(1) 業務インタフェースの変更点

業務インタフェースの変更点はない。

(2) 各メンバの移行

移行が必要なメンバは表5.1に示す通りである。

表5.1 V01L01からの移行メンバ

ライブラリ名	対象メンバ名	インストール方法	備考	
D D X L I B	@SRC	CUPSTART CUPUTCRT	メンバの入替えをする。 必要に応じて修正する。	
	@OBJ	全メンバ	ライブラリ入替え	(注1)
	@FD	OTVFILE	メンバの入替えをする。	
	@JOB	CUPJOB	新規に追加する。	

(注1) ユーザで修正したCLについては、再コンパイルの上ロードモジュールの入替えをする必要がある。

5.2 V01L02からの移行

(1) 業務インタフェースの変更点

業務インタフェースの変更点はない。

(2) 各メンバの移行

移行が必要なメンバは表5.2に示す通りである。

表5.2 V01L02からの移行メンバ

ライブラリ名	対象メンバ名	インストール方法	備考
D D X L I B	全メンバ	ライブラリ入替え	(注1)
@OBJ			

(注1) ユーザで修正したCLについては、再コンパイルの上ロードモジュールの入替えをする必要がある。

6 . ソフトウェア組合せ

このソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは表 6 . 1 の通りである。

表 6 . 1 ソフトウェア組合せ

項番	必須ソフトウェア	適用 V / L	必要条件		備 考
			必 須	オプシヨ	
1	システム制御 プログラム	E 9 2 以降			
2	OMF - FNA				
3	DHS				
4	COBOL E				シミュレータ 機能使用時

7. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表7.1から表7.3に示す通りである。

表7.1 提供媒体形式（FPDの場合）

種 別	記録密度 (フォーマット)	識別番号	ライブラリ数	サイズ	枚 数
FPD フロッピーディスク	256/2HD (1.2MB)	1/2 ~ 2/2	1	3.5 インチ	2 枚

表7.2 提供媒体形式（MOの場合）

種 別	記録密度 (フォーマット)	識別番号	ライブラリ数	サイズ	枚 数
M O	128MB	1 / 1	1	3.5 インチ	1 枚

表7.3 提供媒体内容（FPD、MO共通）

格納順番	格納形式	ライブラリ名	内 容
1 / 2 2 / 2	S A V L I B	D D X L I B	カスタマイズ要ソース オブジェクトモジュール ファイル記述、NSS記述

8 . D A S D 所要量

このソフトウェアのインストールを完了した時の D A S D 所要量の見積りは表 8 . 1 に示す通りである。

表 8 . 1 D A S D 所要量

項 番	ライブラリ名	D A S D 所要量 (K B)
1	DDXLIB	1 0 0 0 0 K B (増分値 1 0 0 0 K B)

9 . インストールの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

本ソフトウェアのインストールは、ハードウェア環境の設定とソフトウェア環境の設定の2つに分かれる。

ただし、シミュレータ機能使用時はHDL C手順の専用回線モデム無し折り返しで使用するものとする。

9 . 1 ハードウェア環境の設定

9 . 1 . 1 C A F I S センタへの接続時

N T T の D D X - P S への接続には、以下のハードウェアが必要となる。

- ・通信制御装置
(A C P)
- ・回線接続機構 1 (V シリーズインタフェースで接続する時)
(C F 1)
- ・回線接続機構 3 (X シリーズインタフェースで接続する時)
(C F 3)

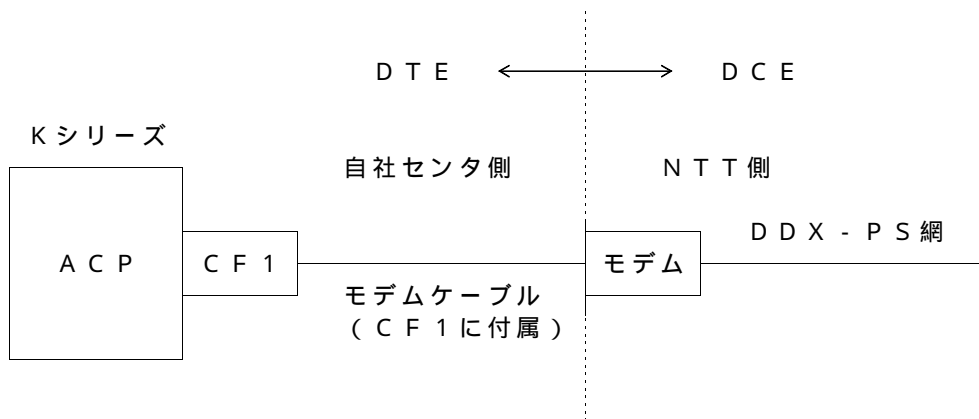


図 9 . 1 回線接続形態 (V シリーズインタフェースの場合)

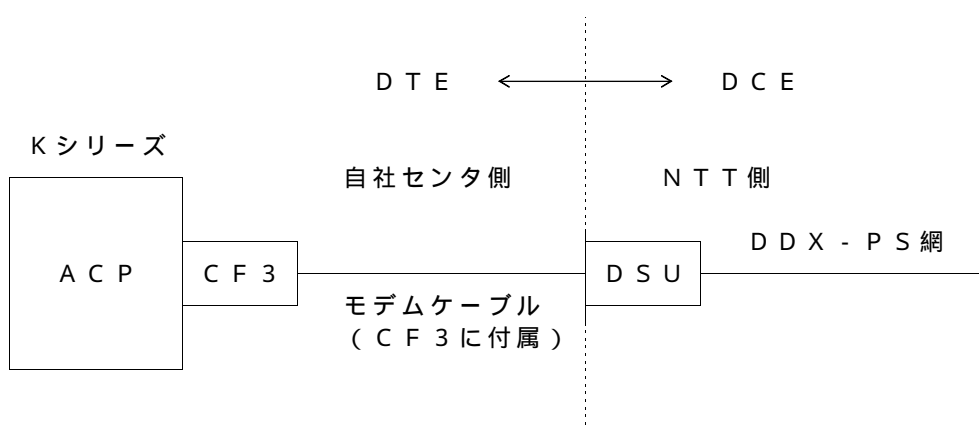


図 9 . 2 回線接続形態 (X シリーズインタフェースの場合)

9.1.2 シミュレータ折り返し試験時

シミュレータ折り返し試験には以下のハードウェアが必要となる。

- ・通信制御装置
(ACP 2 以上)
- ・回線接続機構 1 (V シリーズインタフェース)
(CF 1)

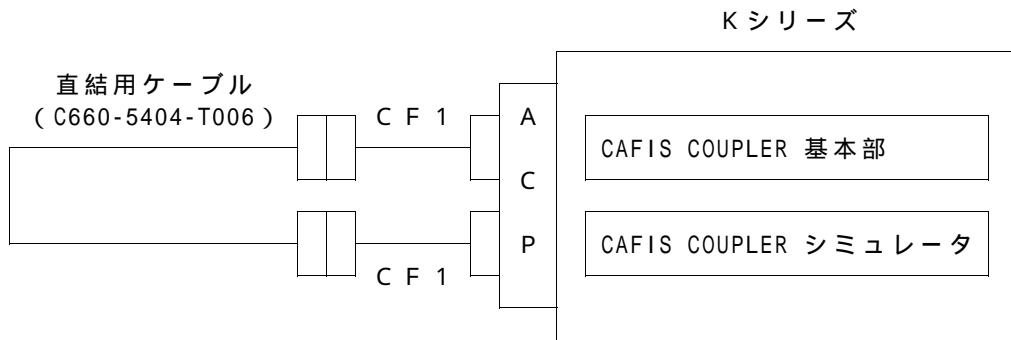
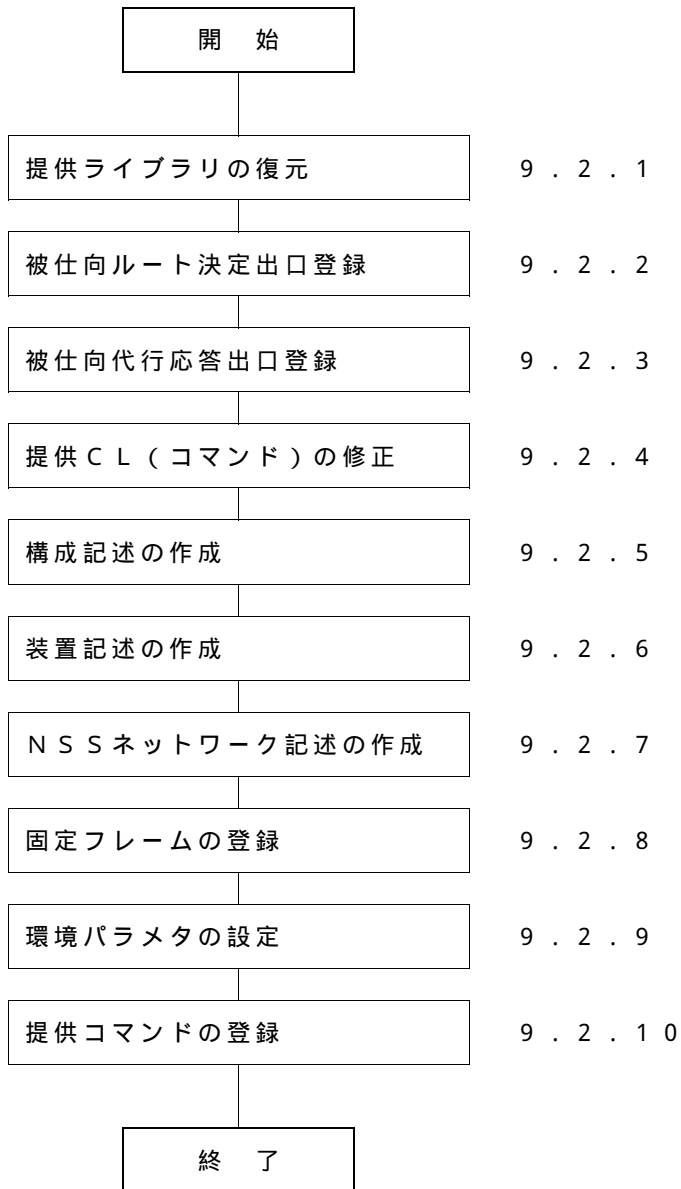


図 9.3 機能試験ハードウェア環境

9.2 ソフトウェア環境の設定



9 . 2 . 1 提供ライブラリの復元

提供ライブラリフロッピーディスクをフロッピーディスク装置に装着後、次のコマンドを打鍵し、提供ライブラリを復元する。

```
R S T L I B  L I B - D D X L I B , T O L I B - D D X L I B ,  
          D E V - F P D 0 , R E P L A C E - @ C R T ,  
          T O D E V - D I S K x x x
```

- (注1) ディスク内に同一名のライブラリがないことを確認してから行うこと。
(注2) T O L I B パラメタは必ず C U P S L I B を指定する。

9.2.2 被仕向ルート決定出口登録

ユーザ側で作成したプログラム（EB）をDDXLIBへ登録する。または同プログラムの存在するライブラリをC-COUPLER用ジョブ記述（CUPJOBDD.DDXLIB）中のジョブライブラリリストに追加する。このとき出口ルーチン内で使用するサブルーチン、ファイル等も同様に考慮すること。

作成要領は、“CSP CAFIS COUPLER 解説書”を参照のこと。
参照【1】3.1

9.2.3 被仕向代行応答出口登録

ユーザ側で作成したプログラム（EB）をDDXLIBへ登録する。または同プログラムの存在するライブラリをC-COUPLER用ジョブ記述（CUPJOBDD.DDXLIB）中のジョブライブラリリストに追加する。このとき出口ルーチン内で使用するサブルーチン、ファイル等も同様に考慮すること。

作成要領は、“CSP CAFIS COUPLER 解説書”を参照のこと。
参照【1】3.1

9.2.4 提供CLの修正

C - COUPLERと連携する業務ジョブの運用を管理するCLをC - COUPLER提供コマンド（CL）中に組み込むことが出来る。カスタマイズの可能な提供コマンドを表9.1に示す。なおC - COUPLERが使用するCLはすべてソース提供する。

表9.1 カスタマイズ可能なCL

コマンド名	機能	備考
CUPSTART	C - COUPLERの運用を開始する。	
CUPSTOP	C - COUPLERの運用を停止する。	
CUPPDACT	C - COUPLER使用VLDのDEACTを行う。	C - COUPLER使用VLD名の変更を行ったときに修正する。
CUPDACT3	CAFIS制御（CUPPPDDX）使用VLDのDEACTを行う。	同上
CUPDACT6	仕向仕掛精算タスク（CUPPR06）使用VLDのDEACTを行う。	同上
CUPDACT7	リトライ送信タスク（CUPPR07）使用VLDのDEACTを行う。	同上
CUPDACTT	タイマ監視タスク（CUPPPTIM）使用VLDのDEACTを行う。	同上

カスタマイズの際は、以下の点に注意する。

- ・業務ジョブが使用するVLD名とC - COUPLERが使用するVLD名は重複してはならない。
- ・C - COUPLER使用VLD名は、環境設定パラメタのPRG文で指定したVLD名と一致していること。
- ・C - COUPLERジョブの起動順序を変更してはならない。
- ・被仕向業務ジョブはC - COUPLERのCAFIS制御ジョブより先に起動しなければならない。またC - COUPLERの全ジョブが終了した後、終了させなければならない。

- ・仕向業務ジョブは、C - COUPLERの全ジョブが起動された後に起動しなければならない。またC - COUPLERの全ジョブより先に終了させなければならない。
- ・提供直後のCL (ソース、EB) は、ユーザカスタマイズ部分を含んでいない。C - COUPLERのコマンドとユーザコマンド (CL) を独立して運用するのであれば、このオブジェクトをそのまま使用しても良い。その場合は、被仕向業務ジョブはCUPSTARTより先に起動し、終了時はCUPSTOP後に終了させなければならない。また仕向業務ジョブはCUPSTART後に起動し、CUPSTOPより先に終了させなければならない。
- ・コンパイル時 (CL) のパラメタは、
PROMPT - @YES
DIC - CUPCMDFL . DDXLIB
を指定すること。

9.2.5 構成記述の作成

9.2.5.1 基本部使用時の構成記述の作成

SIPメニューを起動する。

回線の定義メニューで、接続チャンネルのACP/LAN接続を選択する。

回線記述名（回線物理機番名）と回線アドレスの登録を行う。

回線記述名は、DDX-PS網への接続用に入側と出側の2つを定義する。

（定義例）

回線記述名	回線アドレス
<u>LINE01</u>	<u>010A</u> （入側）
<u>LINE02</u>	<u>010B</u> （出側）

9.2.5.2 シミュレータ使用時の構成記述の作成

SIPメニューを起動する。

回線の定義メニューで、接続チャンネルのACP/LAN接続を選択する。

回線記述名（回線物理機番名）と回線アドレスの登録を行う。

回線記述名は、専用回線への接続用に入側と出側の2つを機能試験用に定義する。基本部用の回線記述は本番運用で使用するものをそのまま使用する。

（定義例）

回線記述名	回線アドレス
<u>LINE01</u>	<u>010A</u> （基本部入側）
<u>LINE02</u>	<u>010B</u> （基本部出側）
<u>LINE03</u>	<u>010C</u> （シミュレータ入側）
<u>LINE04</u>	<u>010D</u> （シミュレータ出側）

9.2.6 装置記述の作成

9.2.6.1 基本部使用時の装置記述の作成

S I Pメニューを起動する。

装置定義メニューで一般リモート装置を選択する。

以下に示すように装置の定義を行う。

(定義例)

装置記述名	<u>COMPDDX</u>	(注1)
パス名	<u>CUPPATH</u>	(注2)
・ノード名	<u>CUPNODE</u>	(注2)
モデル名	<u>M</u>	
ワークステーション種別	<u>NO</u>	
メッセージ記述名	<u>空白</u>	
・ライブラリ名	<u>空白</u>	
プログラムプロダクト名	<u>VTAM</u>	

(注1) C-COUPLERのDDX-PS用のVTAMファイル記述はメッセージユニット名をCOMPDDXとしているのでこの名前を定義する。もし本装置記述名を変更するときは同時にVTAMファイル記述(INVTMF)のメッセージユニット名及び環境設定も同時に変更する必要がある。

(注2) NSSネットワーク記述のC-COUPLER用回線グループのパス名、ノード名と一致していること。

9.2.6.2 シミュレータ使用時の装置記述の作成

S I Pメニューを起動する。

装置定義メニューで一般リモート装置を選択する。

以下に示すように装置の定義を行う。

(定義例)

装置記述名	<u>COMP92</u>	(注1)
パス名	<u>SIMPATH</u>	(注2)
・ノード名	<u>SIMNODE</u>	(注2)
モデル名	<u>M</u>	
ワークステーション種別	<u>NO</u>	
メッセージ記述名	<u>空白</u>	
・ライブラリ名	<u>空白</u>	
プログラムプロダクト名	<u>VTAM</u>	

(注1) C-COUPLERの回線折り返し用のVTAMファイル記述はメッセージユニット名をCOMP92としているのでこの名前を定義する。もし本装置記述名を変更するときは、富士通技術員に連絡し、関連資源の入れ替えを行わなければならない。

(注2) NSSネットワーク記述のシミュレータ用回線グループのパス名、ノード名と一致していること。

9.2.7 NSSネットワーク記述の作成

9.2.7.1 基本部使用時のNSSネットワーク記述の作成

CTLNETコマンドによりNSSネットワーク記述の作成を行う。
設定値を以下に示す。

```
001  GROUP      CUPGRP
002  LINK              CUPLINK
003  NODE              CUPNODE
004  PATH              CUPPATH
```

図9.1 基本部用NSSネットワーク記述

グループ名	C U P G R P	(注1)
手順	H D L C	
回線種別	P A C K E T	
応答モード	A D M / A B M	
局指定	C	
変調モード	N O R M A L	
応答遅延時間	3	
ポーリング監視時間	3 0	
回線網インタフェース	X	(注2)
連続受信数	8	
ダイヤル抑制時間	6 0 0	
M L P 接続	N O	
ロギング採取	Y E S	
パケット網種別	D D X 8 0	
論理チャンネル	0 1 0 1 P V C	
自局加入者番号	1 2 3 4 5 6 7	(注2)
ウィンドウサイズネゴシエーション加入	N O	
スループットクラスネゴシエーション加入	N O	
パケットサイズネゴシエーション加入	N O	
着信課金加入	N O	
送信デフォルトウィンドウサイズ	2	
受信デフォルトウィンドウサイズ	2	
送信デフォルトパケットサイズ	1 0	
受信デフォルトパケットサイズ	1 0	
最大パケット長	1 0 2 4	
送受信バッファ個数	0	

最大同時発呼数	1 2
S Q パケット無応答リトライ回数	2
S Q パケット監視時間	1 8 0
C R パケット無応答リトライ回数	2
C R パケット無応答監視時間	2 0 0
C Q パケット無応答リトライ回数	2
C Q パケット無応答監視時間	1 8 0
R Q パケット無応答リトライ回数	2
R Q パケット無応答監視時間	1 8 0
相手局ビジーリトライ回数	2
相手局ビジーリトライ間隔	1 2 0
相手局ビジー再発呼保留時間	6 0 0
データリンク確立 S Q パケット送信	N O

リンク名	<u>C U P L I N K</u> (注1)
I / O 割込みロギング	<u>Y E S</u>
ロギングデータ長	<u>1 0 2 4</u>
S T R N S S 時活性	<u>Y E S</u>
R R ロギング	<u>Y E S</u>
ファームロギング	<u>Y E S</u>
回線速度	<u>9 6 0 0</u> (注2)
入側物理機番名	<u>L I N E 0 1</u> (注3)
出側物理機番名	<u>L I N E 0 2</u> (注3)
モデム同期信号	<u>S T 2</u>

ノード名	C U P N O D E _____ (注4)
マクロロギング	Y E S _____
ネットワーク内位置	T H R O U G H _____
自局D L Cアドレス	0 3 _____
相手局D L Cアドレス	0 1 _____
D L C 活性リトライ回数	7 _____
D L C 活性リトライ間隔	5 _____
無効応答リトライ回数	7 _____
無効応答リトライ間隔	0 _____
無応答リトライ回数	7 _____
無応答リトライ間隔	0 _____
自局ビジーリトライ回数	6 4 _____
自局ビジーリトライ間隔	3 _____
相手局ビジーリトライ回数	6 4 _____
相手局ビジーリトライ間隔	5 _____
D M 受信リトライ回数	7 _____
セッション確立タイミング	O P E N _____
連続送信回数	7 _____
回線切断制御	Y E S _____
回線切断局	C L U S T E R _____
回線切断タイミング	N O R M A L _____
セッション保留監視時間	1 _____
I フレーム応答監視時間	* _____
接続形態	P V C _____
論理チャンネルグループ番号	0 _____
論理チャンネル番号	1 _____
相手局端末形態	P T _____
接続方法	I N O U T _____
ウィンドウサイズ指定	Y E S _____

スループットクラス指定	Y E S
パケットサイズ指定	Y E S
送信ウィンドウサイズ	2
受信ウィンドウサイズ	2
送信スループットクラス	8
受信スループットクラス	8
送信パケットサイズ	1 0
受信パケットサイズ	1 0
D T パケット無応答監視時間	0
相手局受信不可監視時間	0
D ビット	O F F

パス名	C U P P A T H _____ (注4)
セッション確立リトライ回数	7 _____
セッション確立リトライ間隔	1 5 0 _____
セッション開放監視時間	6 0 _____

- (注1) ユーザ任意の名前を設定する。
- (注2) 回線加入形態によってユーザごとに異なるので適切な値を設定する。
- (注3) 構成記述の回線物理機番名と一致すること。
- (注4) 装置記述のパス名、ノード名と一致すること。

9.2.7.2 折り返し試験用NSSネットワーク記述の作成

CTLNETコマンドによりNSSネットワーク記述の作成を行う。
設定値を以下に示す。

001	GROUP	CUPGRP	(基本部用)
002	LINK	CUPLINK	
003	NODE	CUPNODE	
004	PATH	CUPPATH	

005	GROUP	SIMGRP	(シミュレータ用)
006	LINK	SIMLINK	
007	NODE	SIMNODE	
008	PATH	SIMPATH	

図9.2 試験用NSSネットワーク記述

基本部用グループ

グループ名	C U P G R P _____ (注1)
手順	H D L C _____
回線種別	F I X E D _____
応答モード	N D M / N R M _____
局指定	P _____
変調モード	N O R M A L _____
動作モード	F U L L _____
応答遅延時間	3 _____
ポーリング監視時間	3 0 _____
回線網インタフェース	V _____
送受信バッファ長	1 0 2 4 _____
送受信バッファ個数	0 _____
連続受信数	3 _____
接続形式	P P _____
R S 制御	N O _____
キャリアOFF検出	N O _____
自局ID	省略(空白) _____
ロギング採取	Y E S _____
局間ポーリング	0 _____

リンク名	<u>C U P L I N K</u> (注1)
I / O 割込みロギング	<u>Y E S</u>
ロギングデータ長	<u>1 0 2 4</u>
S T R N S S 時活性	<u>Y E S</u>
R R ロギング	<u>Y E S</u>
ファームロギング	<u>Y E S</u>
回線速度	<u>4 8 0 0</u>
入側物理機番名	<u>L I N E 0 1</u> (注2)
出側物理機番名	<u>L I N E 0 2</u> (注2)
モデム同期信号	<u>S T 1</u>

ノード名	C U P N O D E _____ (注3)
マクロロギング	Y E S _____
ネットワーク内位置	F N A - C L U S T E R _____
自局 P U アドレス	0 0 _____
相手局 P U アドレス	0 1 _____
相手局 D L C アドレス	0 3 _____
X I D 処理	N O _____
相手局 I D	省略 (空白) _____
D L C 活性リトライ回数	7 _____
D L C 活性リトライ間隔	5 _____
無効応答リトライ回数	7 _____
無効応答リトライ間隔	0 _____
無応答リトライ回数	7 _____
無応答リトライ間隔	0 _____
ポーリングサービス間隔	0 _____
レスポンス監視時間	1 5 _____
自局ビジーリトライ回数	6 4 _____
自局ビジーリトライ間隔	3 _____
相手局ビジーリトライ回数	6 4 _____
相手局ビジーリトライ間隔	5 _____
連続送信回数	7 _____

パス名	C U P P A T H _____ (注3)
自局LUアドレス	0 1 _____
セッション確立リトライ回数	7 _____
セッション確立リトライ間隔	1 5 0 _____
セッション確立監視時間	6 0 _____
セッション解放監視時間	6 0 _____

シミュレータ用グループ

グループ名	S I M G R P _____ (注1)
手順	H D L C _____
回線種別	F I X E D _____
応答モード	N D M / N R M _____
局指定	S _____
変調モード	N O R M A L _____
動作モード	F U L L _____
応答遅延時間	3 _____
ポーリング監視時間	3 0 _____
回線網インタフェース	V _____
送受信バッファ長	1 0 2 4 _____
送受信バッファ個数	0 _____
連続受信数	8 _____
接続形式	P P _____
R S 制御	N O _____
キャリアOFF検出	N O _____
自局ID	省略(空白) _____
ロギング採取	Y E S _____

リンク名	<u>S I M L I N K</u> (注1)
I / O 割込みロギング	<u>Y E S</u>
ロギングデータ長	<u>1 0 2 4</u>
S T R N S S 時活性	<u>Y E S</u>
R R ロギング	<u>Y E S</u>
ファームロギング	<u>Y E S</u>
回線速度	<u>4 8 0 0</u>
入側物理機番名	<u>L I N E 0 3</u> (注2)
出側物理機番名	<u>L I N E 0 4</u> (注2)
モデム同期信号	<u>S T 1</u>
リモートパワーオン対象	<u>N O</u>

ノード名	S I M N O D E _____ (注 3)
マクロロギング	Y E S _____
ネットワーク内位置	F N A - H O S T _____
自局 P U アドレス	0 1 _____
相手局 P U アドレス	0 0 _____
自局 D L C アドレス	0 3 _____
X I D 処理	N O _____
相手局 I D	省略 (空白) _____
無効応答リトライ回数	7 _____
無効応答リトライ間隔	0 _____
無応答リトライ回数	7 _____
無応答リトライ間隔	0 _____
自局ビジーリトライ回数	6 4 _____
自局ビジーリトライ間隔	5 _____
相手局ビジーリトライ回数	6 4 _____
相手局ビジーリトライ間隔	5 _____
連続送信回数	7 _____

パス名	S I M P A T H _____ (注3)
自局LUアドレス	0 2 _____
相手局LUアドレス	0 1 _____
セッション確立リトライ回数	7 _____
セッション確立リトライ間隔	1 5 0 _____
送信ページング値	0 _____
受信ページング値	0 _____
送受信最大RU長設定	N O _____
SSCPメッセージ送出	N O _____
セッション確立監視時間	6 0 _____
セッション解放監視時間	6 0 _____

- (注1) ユーザ任意の名前を設定する。
(注2) 構成記述の回線物理機番名と一致すること。
(注3) 装置記述のパス名、ノード名と一致すること。

9 . 2 . 8 固定フレームの登録

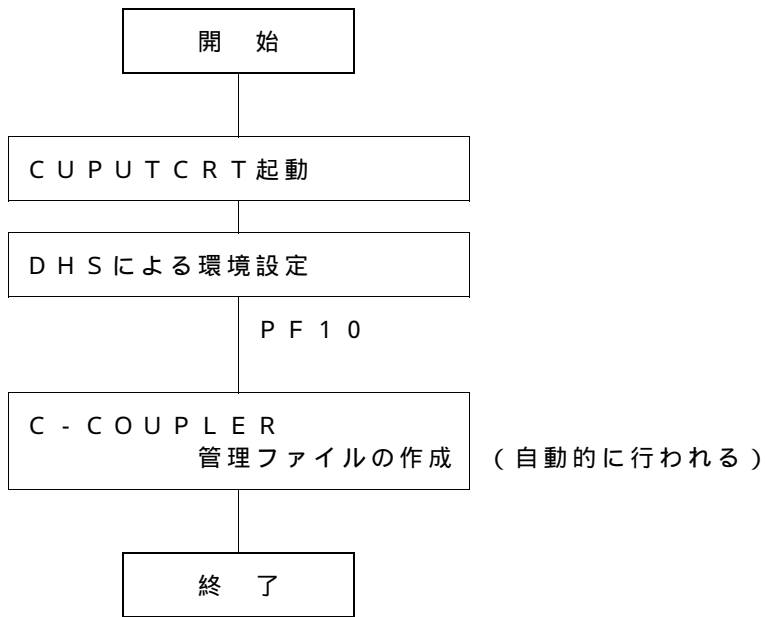
C A F I S 制御タスク (C U P P P D D X) は本ソフトウェアのメインタスクであるので、動作環境は十分余裕を持たせることが望ましい。その為提供コマンド C U P S T A R T 中では、ジョブの動作フレームに固定フレーム (C U P F R M 1) を指定してある (フレーム名は変更可) 。ユーザはこの固定フレームをシステムに登録する必要がある。

```
C R T F R M      F R M - C U P F R M 1 , V S I Z E - 3 2 ,  
                R S I Z E - 1 6
```

登録した固定フレームは次回の I P L 操作以後使用可能となる。

9.2.9 環境設定パラメタの設定

環境パラメタ設定手順



環境定義体一般形式

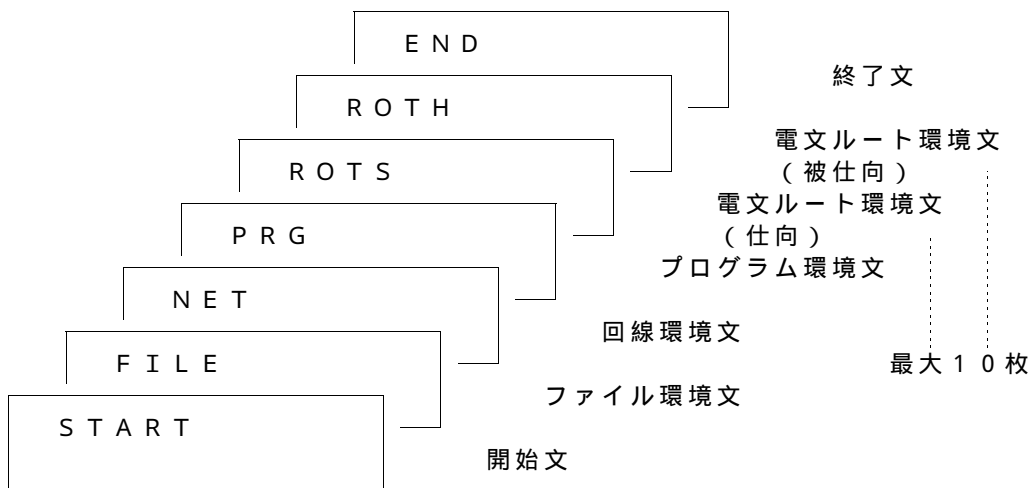
キー	区分	パラメタ本文
9 (2)	X (5)	X (75)

キー : ファイル内のキー項目。

区分 : 定義体の種類を表す。

パラメタ本文 : 環境設定パラメタを設定する。

環境定義体の構成



各環境定義文のフォーマット

- ・ 開始文 (環境定義の開始指示)

0 1	"START"	コメント
9 (2)	X (5)	X (75)

・電文ルート環境文（仕向／被仕向）（業務で使う電文ルート表の定義）

40 から 59	"ROTS" (仕向) "ROTH" (被仕向)	電文ルート コード	ル　ー　ト　表						コ メ ン ト
9(2)	X(5)	X(20)	X(3)	X(3)	X(3)	X(3)	X(3)	X(3)	X(35)

（最大10ルート）

・終了文（環境定義の終了指示）

99	"END"	コ　メ　ン　ト
9(2)	X(5)	X(75)

環境パラメタ詳細

区 分	項 目 名	内 容
F I L E	仕向電文管理 ファイルブロック数	仕向電文管理ファイルの総ブロック数を定義する。必須入力。ゼロでないこと。
	C A F I S 指定コード	C A F I S センタからセンタ毎に指定されたパスワードを16進形式で指定する。必須入力。
	現パスワード	自社パスワードを16進形式で指定する。必須入力。接続試験時およびパスワードクリアを行う時は、オール9 ("F9F9F9F9")を指定する。
	新パスワード	自社パスワードを変更する時、16進形式で新パスワードを指定する。スペースかオールゼロの時はパスワード変更なしとみなす。接続試験時は、オール9 ("F9F9F9F9")を指定する。
	暗号化フラグ	電文暗号化の有無を指定する。 暗号化を行う : Y かスペース 暗号化を行わない : N 上記以外の値を指定した時はエラーとなる。 シミュレータ使用の時は N を指定する。 本番運用時は必ず Y を指定する。
	経路管理 ファイルブロック数	仕向経路数 + 1 を指定する。 現在の D D X 接続は 6 経路固定のため、7 を指定する。

区 分	項 目 名	内 容
N E T	業務持廻り情報域長	被仕向時の受信電文を業務プログラムへ渡す場合の連絡メッセージ内にセットする業務持廻り情報域の長さをバイト数で定義する。必須入力。ゼロでないこと。
	自社コード (16進表記)	C A F I S 加入時の自社コードを16進形式で指定する。必須入力。スペースでないこと。
	回線メッセージ ユニット	C A F I S と接続する回線のメッセージユニット名を指定する。V T A M ファイル記述のメッセージユニット名, S I P の接続装置名と等しいこと。必須入力。
	会社サブコード (16進表記)	C A F I S 加入時の会社サブコードを16進形式で指定する。必須入力。 会社サブコードを使用していない場合は、オールゼロ ("F0F0F0F0") を指定する。

区 分	項 目 名		内 容
P R G	タ ス ク 宛 先 V L D 名		C A F I S 制御ジョブ (C U P P P D D X) の制御用宛先 V L D 名を指定する。0 0 1 ~ 9 9 9 までの任意の値でよいが、他ジョブの使用 V L D と重複してはならない。必須入力。
			C A F I S 制御ジョブ (C U P P P D D X) の被仕向用宛先 V L D 名を指定する。設定条件は に等しい。
			C A F I S 制御ジョブ (C U P P P D D X) の仕向用宛先 V L D 名を指定する。設定条件は に等しい。
			タイマ監視ジョブ (C U P P P T I M) の宛先 V L D 名を指定する。設定条件は に等しい。
			仕向仕掛清算ジョブ (C U P P R 0 6) の宛先 V L D 名を指定する。設定条件は に等しい。
			送信リトライジョブ (C U P P R 0 7) の宛先 V L D 名を指定する。設定条件は に等しい。
	P O S T 宛 先 V L D 名	開始 通知宛先	P O S T コマンドキューイングジョブ (C U P P O S T 3) の宛先 V L D 名を指定する。0 0 1 ~ 9 9 9 までの任意の値でよいが、他ジョブの使用 V L D と重複してはならない。必須入力。
		終了 通知宛先	同 上
			未使用。
			未使用。

9.2.10 運用コマンドの登録

以下のCLをコマンド分割ファイル(XUCMDF、XUCMDL)及び利用者共通ライブラリ(XUCL)に登録する。

以下、運用管理コマンド

運用開始コマンド	CUPSTART	コマンド分割ファイル(注)
オンライン開始コマンド	CUPSONL	利用者共通ライブラリ
オンライン終了コマンド	CUPPONL	利用者共通ライブラリ
運用終了コマンド	CUPSTOP	コマンド分割ファイル(注)

以下、ユティリティコマンド

ファイル初期化	CUPUTINT	コマンド分割ファイル(注)
仕掛電文印刷	CUPUTUNY	コマンド分割ファイル(注)
環境設定	CUPUTCRT	利用者共通ライブラリ

以下、シミュレータコマンド

機能テスト起動	CAFSTARTK	利用者共通ライブラリ
開局	CAFOPEN	コマンド分割ファイル(注)
試験	CAFTTEST	利用者共通ライブラリ
閉局	CAFCLSE	"
機能テスト停止	CAFSTOPK	"
試験キャンセル	CAFCAN	"
プリント	CAFPRINT	"
電文データ作成	CUPUTCAF	"

(注) 当コマンドをコマンド登録後、CALLで実行するときはパラメタの省略(デフォルト値採用)は出来ない。必ずパラメタを明に指定すること。

例 - CALL CUPSTART.DDXLIB,(WARM)
 x - CALL CUPSTART.DDXLIB
(S0826: "受け渡されたパラメタブロックに誤りがある"
 のエラーとなる)

10. インストレーション正常終了の確認方法

ここではインストレーション操作完了後のインストレーション正常終了の確認方法について述べる。

正常終了の確認は最終的にはCAFISセンタとの接続試験時可能となるが、接続試験シミュレータを用いることによりインストレーションの成否を確認することができる。

10.1 確認手順



1 1 . 動作環境のチューニング

インストレーション終了後、C - C O U P L E R の運用は可能となるが、ここでは業務ジョブを含めたC A F I S 接続システム全体の性能チューニング方法について述べる。

C - C O U P L E R の動作環境は、提供ライブラリ中でチューニングされているため本ソフトウェア利用者は特に意識する必要はない。従ってここでは主に業務ジョブの環境設定時留意すべき事項について述べる。

C - C O U P L E R と同時に動作するジョブが使用する資源（ファイル等）は、C - C O U P L E R ライブラリ（D D X L I B ）と別のディスクボリュームに配置し、ディスクアクセスの負荷分散を行う。別ボリュームへの配置が困難な場合は、同一ボリューム中でできるだけ近い位置に配置する。

C A F I S 接続システムと他のシステムのジョブ（特にバッチジョブ）の同時運用は出来るだけ避ける。

C A F I S 業務ジョブの実記憶は十分確保する。（実記憶容量不足は、ページングを多発させ、システム性能を著しく低下させる）

C A F I S 接続システムを構成するジョブの優先度は、送信時はC - C O U P L E R に近い程、受信時はC - C O U P L E R から遠い程高く設定する。

業務ジョブ構成プログラムが十分デバッグ済なら、コンパイル時のC H E C K パラメタを@ N O にすることにより使用メモリの減少、実行速度の向上が期待できる。

C - C O U P L E R は全ジョブで仮想記憶6 1 4 4 K B、実記憶9 6 0 K Bを必要とする。この値が確保できない場合は、システム性能の低下が予想されるので極力上記の値は確保すること。特に仕向制御ジョブは安定した動作を確保するため固定フレームを使用することが望ましい。また実記憶容量に余裕がある場合は、メモリ管理をページ方式にしてみることもシステム性能の向上に効果がある。 参照 9 . 2 . 8

12. 業務ジョブのタイマ監視サポート

C - COUPLER が正常に動作している限り、業務プログラムは発信した電文に対して必ず何らかの報告電文を受け取る。しかし C - COUPLER ダウンや業務ルートダウン時には、報告電文の受信が不可能になる場合がある。このような事態に備えて業務ジョブは報告電文待ちタイマ監視をすることが望ましい。

C - COUPLER はユーザが容易にタイマ監視システムを構築できるよう、タイマルーチンを提供する。ユーザはこのサブルーチンを用いてタイマ監視システムを構築できる。以下にこのルーチンの使用法について述べる。

12.1 呼出法

```
CALL 'TWAIT' USING 待時間 作業領域
```

12.2 パラメタ説明

待時間 P I C 9 (6) C O M P S Y N C .

CALL してから復帰するまでのWAIT時間を秒単位で指定する。

作業領域 P I C X (6 4) S Y N C .

作業領域。領域を確保するだけで良い。

12.3 機能

パラメタの“待時間”で指定された時間だけWAITし、復帰する。

13 . その他注意事項

本ソフトウェアを使用する上で注意すべき点を述べる。

C - C O U P L E R のジョブをシステムコマンド等 (CANJOB、REFSYS) で強制終了したときC - C O U P L E R の管理ファイルに不整合が発生し、C - C O U P L E R の運用コマンドCUPSTART (WARM)、CUPUTINT (WARM)等が実行不能になる場合がある。このような場合はユティリティCUPUTCRT (環境設定) を使用してC - C O U P L E R 管理ファイルの再創成を行うか、CUPUTINT (COLD)コマンドを投入してC - C O U P L E R 管理ファイルの初期化を行う必要がある。(CUPSTART (COLD)も実行可能)

電文データ作成ユティリティ (C A F U T Y 0 1) はコンパイル時多数のコピー句を組み込む為、大きな翻訳用作業領域を必要とする。従ってWORKパラメタの値は大きめに指定する必要がある (1000KB以上必要)。

機能テスト起動コマンドC A F S T A R Kを使用する前は、必ず電文データ作成コマンドC U P U T C A Fを使用してアクションファイルを再作成しなければならない。この操作を行っていない場合、C - C O U P L E R の動作は保証しない。

C A F I Sシミュレータは、V L Dの510、514、586、587を固定で使用するため、他のジョブはこのV L Dを重複して使用してはならない。

付録 . 1 メッセージの説明

追加・変更となったメッセージについて説明する。

付 1 . 1 追加メッセージの説明

CUP2504I

デンブンハイキ ケイロフリー (aaaa ,bbbb ,cc ,dddddd ,eeeeeeeeeeeeeeeeeeee)

[出力される場合]

取消再指令電文受信時に、該当経路が開放されている。

[パラメタの意味]

aaaa : 経路番号

bbbb : 電文種別

cc : センタ識別番号

dddddd : CAFIS 処理通番

eee - e : 電文管理キーコード

[システムの処理]

電文を破棄する。業務プログラムには異常報告電文 (Z01 : CAFIS への送信不能を通知する。

CUP2912I

CUPPPRTM CAFISセンタ ビジー ジュシン (aaaa ,bbbbbb ,cccccccccccccccccccc)

[出力される場合]

仕向において、取消確認 (再) 指令に対して異常報告を受信した。

[パラメタの意味]

aaaa : 電文種別

bbbbbb : 仕向処理通番

ccc - c : 電文管理キーコード

[システムの処理]

取消確認再指令をリトライする。

CUP2913I

CUPPPRTM デンブンハイキ (a ,b ,cccc ,dddddd ,eeeeeeeeeeeeeeeeeeee ,ffff ,gggg)

[出力される場合]

ルーティング管理 (ルーティング処理レベルチェック) で電文破棄条件が発生した。

この条件は電文連続受信及び送信電文と受信電文の競合の場合に発生する。

[パラメタの意味]

a : 仕向または被仕向の区分 (S - 仕向, H- 被仕向)

b : C-COUPLER 内部ルーティング処理コード

cccc : 電文種別

dddddd : 仕向処理通番

eee - e : 電文管理キーコード

ffff : 連絡メッセージのルーティング処理レベル

gggg - c : 電文管理ファイル内のルーティング処理レベル

[システムの処理]

電文を破棄する。業務プログラムに復帰コード = 0 で正常復帰する。